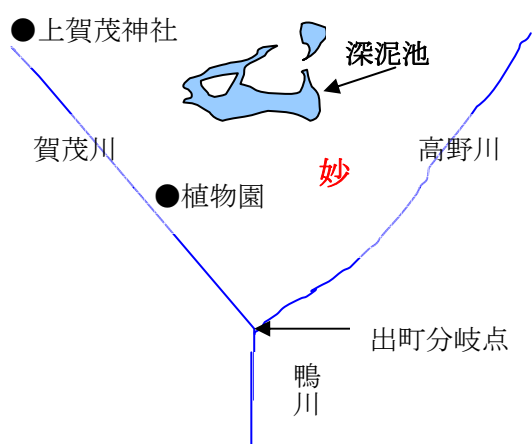


PROLOGUE

一頭のゾウがシラカバ林から出て、渴きを癒すために湿原の水辺に歩いて来た。ところがぬかるみに脚をとられて、もがくうちに自重で沈んでいく。どこに潜んでいたのか、屈強な男たちが現れ、槍で襲い、巨大な獲物を仕留めた。2万年前の京都盆地では、さほど珍しくない情景であったかも知れない。古代ゾウの足跡の化石が、京都・東山動物園辺りで発見されています。最後の氷期（ウルム期）を迎え、年間平均気温も今より7～8℃は低かったようです。

深泥池（みどろがいけ）



京都洛北の**深泥池**は、尾瀬ヶ原（群馬県）より数倍も古く、十数万年前からの環境を未だに保持している、稀有な自然です。周囲1.5km、面積は10ha、**国の天然記念物**として指定されています。上賀茂神社から東へ30分、植物園から北へ10分、送り火「**妙**」が点される松ヶ崎・西山にも囲まれた谷間にあります。京都市内ながら東北・北海道のような北方寒冷地に多い**泥炭湿原**であり、繁茂生息する動植物が多彩かつ貴種ばかりで、それゆえ「**天然の古墳**」、「**現代の奇跡**」と称されています。

古代からの遺存種**ミツガシワ**（リンドウ科）や、世界分布の南限である**ホロムイソウ**や**アカヤバナゴケ**を筆頭に、過去の観察記録によれば、トンボ

60種、鳥類160種、クモ類200種を数えています。日本一の**トンボ公園**とも言われ、クモ類は日本全国で約1,000種類のうちの、全体の20%がこの池に集中していることとなります。中には水中に気泡を作り、そこで生活する**ミズグモ**も見られます。また絶滅種ですが、**ベッコウトンボ**や固有魚種の**カワバタモロコ**や**バラタナゴ**も生息していました。つまり、餌になる小動物、昆虫、ミジンコ類がそれだけ豊富であり、良好な（水質）環境が永く保持されたことの証明です。

上記以外の特徴としては、**ミズゴケ**の特性が永年の間に造り出した、夏季のみ出現する**浮島**と、食用にもなる**ジュンサイ**（スイレン科）ですが、冬季にはカモが見られる「探鳥地」としても有名です。ジュンサイは、30～40年前より商業的採取はされていませんが、やはり池の代名詞です。ぬるっとして箸でつかみづらいので、「要領を得ず、いいかげんな」という意味の「**じゅんさいな**」という表現が京滋地域では使われるほどです。万葉集にも「**葦**」の古名で詠まれています。

わが情 ゆたにたゆたに浮き**葦** 辺にも奥にも 寄りかつまじ

万葉人もはるばる訪ねて来たのでしょうか。残念ながら、成就しない想いであったようですね。また、織田信長が狩野永徳に命じて描かせ、越後の上杉謙信へ贈った『洛中洛外図上杉本』にも「**みぞろいけ**」の名で登場します。9羽の水鳥、弓を引く男、薪を運ぶ女などが見受けられます。

浮島の謎

浮島は**ミズゴケ**が造り出した傑作です。深泥池は河川の流入がなく、降雨あるいは周辺の里山の土中からしみ出てくる湧き水による溜め池のようなものです。従って混ざり物が少なく、栄養分の少ない**貧栄養水質**です。PH（ペーハー：水素イオン濃度）は4～5で酸性の強い水です。PHって皆さんも理科で習いましたよね。中性がPH7で、それより低いと酸性が強くなります。

ミズゴケは**貧栄養**の水質で、**PH5.5以下でない**と生存できませんが、深泥池は好都合でした。大量に繁茂しましたが、当然一部は死枯し、遺体となります。その遺体はバクテリアが分解するのですが、**貧栄養**で酸性水質であるため、バクテリアの個体数も少なければ活動も不活発です。つまり、遺体が未分解のまま残り、泥炭化して堆積します。ある時、夏季のため水温が上昇すると未分解層から**メタンガス**が大量に発生し、堆積物に浮力を付けて浮島となって現れる訳です。

女人幽霊が出る？

池およびその周辺地域で幽霊が出るとの噂があり、何故なのか少し探ってみました。

まずは「**隠遁地説**」。洛北とは深泥池周辺だけでなく、八瀬大原、岩倉、貴船、鞍馬などを含む広範な地域です。隠遁者には、惟喬親王（文徳天皇の第一皇子；親王伝説）、建礼門院徳子（平家物語；寂光院）、石川丈山（詩仙堂）、源義経（鞍馬寺）は勿論、与謝蕪村や後水尾天皇（修学院離宮）、岩倉俱視なんかも挙げられるようです。俗世に絶ちがたい思いを残したまま、都を離れて棲まざるを得なかった方々です。中には恨み骨髄、死んでも死にきれぬ情念が、亡くなった後もこの世を彷徨っているかも……。少しケースは異なりますが、和泉式部の丑の刻参りも有名で、草木も眠る丑三つ時に呪いのわら人形を打込む話です。夫の心変わりを許さなかった式部ですが、あの背景は貴船社で、**謡曲『金輪』**^{かなわ}のモチーフです。ちなみに、式部には次のような歌があり、最初の歌など心の深淵で燃えさかる情念が見えるようです。女こそ幽霊にふさわしい？

物思えば 沢の螢も我身より あくがれ出づる 魂かとぞ見る
名を聞けば 影だに見えじ深泥池 すむ水鳥の あるぞあやしき

今ひとつの推測としては、これはたぶん現実的・経済的な話なのですが、「**隠し美田説**」です。今も昔も税金は悩みの種で、苛斂誅求を極めた米の納税に困り果てた農民達が、人里離れた区域（例えば谷間の深泥池あたり）に、帳面にも記載されない田んぼを隠し持っていたらしい。村人の中でも一部にしかその存在を知らせず、当然役所の方には黙ったまま。村人であれ役所の人間であれ、見つかつては元も子もないので、魔物が出るとか、祟りがあるとか言って、近づけないように噂を広める。万一近づくとかがあった場合には、やむなく排除したのではないかと。魔物の噂自体が大きくなったのか、それとも殺された者の怨念が本当に彷徨い出たか、ともあれ怪しげな区域ができてしまったという訳です。こちらの方がよほど怖いかも知れませんね。

存亡の危機、環境悪化

昭和2（1927）年、**深泥池水生植物群落**が国の天然記念物に指定され、さらに昭和63（1988）年に**深泥池生物群集**が再指定されました。つまり水生植物だけでなく、植物・菌類・動物その他、池に生息する全ての生物にまで範囲を広げた訳ですね。ところが近年の環境悪化で、池は危機的な状況にあります。大きな原因は、隣接の里山が荒れて、養分の多い土が雨と共に混入するとか、周辺の宅地開発が進み過度の生活廃水が流入することです。何故なら水道水がカビ臭くなるのと同様に、酸性の貧栄養な水質が富栄養化してしまうからです。富栄養化で劣勢種が息を吹き返し、在来固有種の生存環境を壊し、動植物の相互依存関係が崩れていきます。植物相ではマコモやヨシ、帰化種のナガバオモダカが増殖し、魚相では放流帰化種のおオクチバス（ブラックバス）やブルーギルが、琵琶湖同様に猛烈な勢いで増えました。このことがルアー釣りを誘発して、糸でジュンサイの茎などを引きちぎる被害も出ています。その他ゴミの不法投棄も無視できません。

1985年には、池の西側を通る**道路の拡幅工事問題**が起きました。一山越えた北側の岩倉地区の人口増加が著しくて交通渋滞を解消できず、拡幅の請願は市議会を通りました。ただしこの時は「**深泥池を美しくする会**」が阻止運動を展開、一旦この案件は持ち越しとなりました。道路拡幅は池の縁を埋立てる問題もありますが、湧水脈を断ち切る懸念とか、人為的な破壊行為や不法投棄を誘発しかねません。かつて戦後の1948年には、食料難解消のため埋立て計画も上りました。この時も当時の京都ヴィラ苑長・**富田靖氏**らが阻止運動を起し、計画が中止になっています。

池は天然記念物でも周囲は規制対象外なのです。

EPILOGUE

田末利治氏、72歳。私が中学生時の理科の先生です。リタイア後も池の調査や保全に関わり、深泥池に関する新聞記事や書籍には必ず名前が載るほどの存在で、**深泥池を守る会**事務局長職も最近まで勤めていました。今も週2回、大学の先生方と共にブルーギルの個体数調査と捕獲作業を続けていますが、天然記念物・深泥池の危機を憂えています。最近知ったことだが、先生は、1960年代に、京都の深草で50万年前の東洋ゾウの歯の化石を発見されたこともあります。